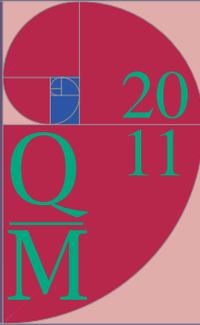


Trace du
demi-siècle
entre Yokohama
et Paris

作曲家の肖像
丹波 明
AKIRA TAMBA

横浜～パリ
半世紀の軌跡
コンセールポルトレ

CONCERT
PORTRAIT
室内楽作品集



2011年 11月 19日(土)
13時 30分 開場 14時 00分 開演

神奈川県民ホール 小ホール
みなとみらい線日本大通り駅 3番出口
Kanagawa Kenmin Hall Salle Récital
Ligne Minatomirai Nihon-odori Sortie 3



ヴァイオリンとピアノのための **ソナタ**
SONATE pour violon et piano
1961

タタター 弦楽四重奏曲*
TATHATÂ pour quatuor à cordes
1968

エレマンタル IV チェロ独奏曲
ÉLÉMENTAL IV pour violoncelle seul
1984

テトラクロニ ピアノ四重奏曲
TÉTRACHRONIE pour trio à cordes et piano
2008

ヴァイオリン **中澤 沙央里**
violon Saori NAKAZAWA

ヴァイオリン **竹内 弦***
violon Gen TAKEUCHI

ヴィオラ **中山 良夫**
alto Yoshio NAKAYAMA

チェロ **長明 康郎**
violoncelle Yasuro CHOMEI

ピアノ **野平 一郎**
piano Ichiro NODAIRA

解説 **丹波 明**
commenté par Akira TAMBA

全席自由
一般 ¥3000
学生 ¥2000
児童 ¥1000

passage
rhizome (パスリゾーム・会員)
各¥500引

チケット取扱い [9月5日前売開始]
カルチエミュージコ 03-3415-8916
チケットかながわ 045-662-8866
東京文化会館チケットサービス 03-5685-0650

後援 / 社団法人日本作曲家協議会
日本現代音楽協会

丹波 明

Akira TAMBA

■1932年横浜生まれの丹波明は、横浜英和小学校、旧制神奈川県立横浜第一中学校(現・神奈川県立希望ヶ丘高等学校)から東京藝術大学に進み、1960年にフランス政府給費留学生として、パリ高等音楽院で、オリヴィエ・メシアン、トニー・オーバンに師事。作曲で一等賞、楽曲分析で二等賞、リリー・ブーランジェ賞、ディヴォンヌ・レ・バン作曲賞を受賞。64-67年フランス国立放送研究所にてミュージック・コンクレートの研究。1968年にフランス国立科学研究所哲学科(CNRS)に入り、1998年から主任研究員をつとめた。

■1971年「能音楽の構造」によってソルボンヌ大学より音楽博士号、84年『日本音楽理論とその美学』により同大学よりフランス国家博士号を授与される。日本では『創意と創造』『序破急という美学』(ともに音楽之友社)が出版されている。

■70年以降、多くの音楽祭で作品を発表。とくに79年フランス国立放送により「丹波明の一日」が放送され、同年オランダ現代音楽祭で10作品が演奏された。主要作品としては、フルート・ソナタ、ピアノとオーケストラのための『曼荼羅』、チェロ協奏曲『オリオン』、邦楽器のための『アンテルフェランス』の8曲のシリーズなどがある。

■能音楽の研究をはじめたのは、インドのリズム原則を帰納化して西洋音楽にとり入れたオリヴィエ・メシアンの啓発によるものである。日本の伝統文化への深い造詣とそれらを背景とした独自の芸術観が、現代作曲家としてのアイデンティティをきわだたせ、安易な感覚主義や浅薄な異国趣味とはまったく無縁の世界を築いている。

■丹波明は、20世紀音楽における十二音音楽の閉塞感のなかで、平均律のみならず、音素材に内在する変容した時間がリズムとなつて、縦の線の制御から完全に解放されたミュージック・コンクレート、さらには、非決定音楽の細胞組織をもつ能音楽から導き出された、精神生理学的要素に基づいて、速度・密度・強度が漸進的に増加する時間構造を、「序破急」理論に昇華し、21世紀の世界の音楽潮流にも開きうる普遍性をもつ美学原則を提案している。

■今回のプログラムは、ドビュッシー晩年のソナタを継承する様式として書かれた『ソナタ』(1961)、序破急理論の確立を模索した『タター』(1968)、『エレメンタル』シリーズの4番(1984)、最新作である『テトラクロニ』(2008)を作曲年代順に取り上げ、丹波明の半世紀の軌跡としてその美学・理論を俯瞰するものとなる。

カルチエミュージコ Quartiers Musicaux

■2001年から、ヴァイオリンの羽室ゆりえ(1952-2011)を中心としてはじまった、東京などで毎年4回開催している室内楽シリーズ。ヴァイオリンと弦楽器・管楽器などの編成で、演奏機会の少ない佳作をとりあげ、公演をつづけている。2007年より、夏の神奈川公演も開催している。

■これまでに、ドビュッシー、ルーセル、ラヴェル、オネゲル、フランセ、ミヨー、ミヨーなどの近代フランス音楽、バルトーク、コダーイ、ヴィラ=ロボス、ウェーベルン、ベルク、ヒンデミットなどのほか、同時代の作曲家としてクセナキス、ジョラス、デュサパン、バクリ、タンギ、ロッセ、アミイ、カーター、武満徹、平義久、吉田進、ブレーズ、ケージ、サーリアホ、ベリオ、カーゲル、ペトリッチなどの作品を演奏している。

■2008年6月にはリヨンからアンサンブル・レ・タン・モデルヌを迎え、〈カルチエ・デテ2008〉を開催し、1990年以降のルルー、エルサン、マントヴァーニなどのほか、野平一郎、細川俊夫の作品を紹介。メンバーのウィレム・ラチュウミアのピアノ・リサイタルでは、シュトックハウゼン、ブークレーシュリエフ、ジョドロウスキなどの作品をとりあげた。また、アンサンブルと日本の作曲家の新作初演のための「ランデヴ・アヴェック・キ？」も開催した。

■同年11月には、ヴィラ九条山の招聘アーティスト、作曲家クレール=メラニー・シニューベールの新作初演コンサート(横浜トリエンナーレ・フランス・デー、京都・ヴィラ九条山)に出演した。

■2009年からの新作委嘱シリーズでは、エディット・カナ=ドゥ=シズィのヴァイオリン・ソロ『砕けてもあり、...』の委嘱初演を中心に〈カルチエ・デテ2009〉を神奈川で開催、来日した作曲家とともにコンフェランス、公開リハーサルも行った。翌年の〈カルチエ・デテ2010〉では、レジス・カンポの委嘱作ヴァイオリンとヴィオラのための『永遠の陽光.2』などととも宮川渉の作品をとりあげた。今年6月には、グラシアヌ・フィンズィの委嘱作ヴァイオリンとヴィオラのための『遮られる時どき』を中心に〈カルチエ・デテ2011〉を開催。このシリーズは同時代の作曲家を多角的にとらえる試みとなっている。

■コンサートでとりあげられる機会の少ないこれらのプログラムにより、コンサートホールで、はじめて聴く音楽に耳を澄ますよここびをあじわってもらえるようこころがけている。

2011年11月2日(水)に、日仏会館の主催により、丹波明講演会 が開催される予定です(タイトル、時間未定)

〈カルチエミュージコ 今後の予定〉

2012年2月5日(日) 14h00 大泉学園ゆめりあホール

アティレ弦楽四重奏団+オーボエ コンサート

中澤沙央里 原田百恵実 福田道子 松井洋之(アティレ弦楽四重奏団) 土屋英晃 湯浅 譲二 / 三善 晃 / 一柳 慧 / 西村 朗(四重奏) 武満 徹(五重奏)

会員募集 カルチエミュージコ会員 / Adhérent des QM

カルチエミュージコの活動を応援していただける会員を募集しています。

◆年会費 □後援会員 12万円 □賛助会員 3万円 □協力会員 5千円

◆特典 □会員種別に応じて主催各公演にご招待・ご優待



パスリゾームは、現代音楽コンサートを楽しむための新しいメンバーシステムです

パスリゾームに登録すると、協賛する現代音楽コンサートにおいて、パスリゾームのために設定された割引料金でチケットを購入できます。

◆初年度年会費1000円(お申込み月の翌年同月末日まで有効)

パスリゾーム事務局 passerhizome@gmail.com

2007年2月1日木曜日、パスカル・デュサパンはコレージュ・ドゥ・フランスの開講講義の教壇に1530年創設爾来ピエール・ブーレーズにつづくふたりめの作曲家として登場した

音楽を聴くことについて
考えるひとびとのための
不屈の講義録

作曲のパラドックス

パスカル・デュサパン 著

富山ゆりえ 訳

テオロス叢書02

パンオフィス刊

B6版変形(121×185) 81頁

定価 ¥1000

会員 ¥900

(税込) 送料無料



お申込・お問合せ TEL 03-3415-8916

〈チケット・書籍・入会・その他〉

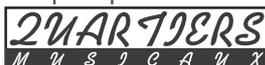
FAX 03-3415-8917

ゆうちょ銀行振替口座

00160-4-658439 カルチエミュージコ

entracte@m.email.ne.jp

<http://quartiersmusicaux.blog77.fc2.com/>



カルチエミュージコ

SEARCH

